

よる 夜の

おと 音

だけど、^{よる}夜に ^{あだ}なると ^{しず}辺りが し〜んと
^{かえ}静まり返って、^{かみさま}神様が ^み見てくださって
いるって、わかるんだ。



しごと しごと
仕事、仕事！

はたら はたら
働け、働け！

はたら はたら
働け、働け！

しごと しごと
仕事、仕事！

おっと、
は葉っぱが！

ひる あいだ きみ
昼の間、君は ちっぽけで、
そうおん ひかり
騒音と まぶしい 光で
け
かき消されてしまいそうに 感じる。





かみさま うちゅう あんない
 神様は、宇宙を 案内してくださる。
 あま がわ の
 天の川に 乗ることも できるよ。



きんいろ つき のほ
 金色の 月が 昇ってくると、それが
 ずっと き 消えなければ いいのにと おも
 思う。



みんなが ^{しず}ね静まると ^{よる}夜の ^{しず}静けさの ^{なか}中で、
^{かみさま}神様は ^いほくたちが ^い生きているのを
^{そん}ご存じなんだなあって、わかるんだ。
^{かみさま}神様の ^{こえ}声が、^{あたま}頭の ^{なか}中で はっきりと
^き聞こえてくるよ。

わたしは、^{よる}夜が
^{だいす}大好きなんだ！



きみ 君は、み^{たま}霊にあって さいこう 最高の きぶん 気分になる。
そら 空にだって とど 届きそうな きぶん 気分だ。
だって、よる 夜には い だい 偉大なる そうぞうぬし 創造主と きみ 君は
だれよりも ちか 近くに いるからね。

だから、1日^{にち}が やかましくて うんざりで、
だれも 自分^{じぶん}の ことなんか
おかまいなしだって
かん^{かん} 感じるなら、



あの鳥^{とり}、ちっちゃくて、
ぼくの ことさえ
た^た 食べられないんだ!

あい 愛する 者よ、夜^{よる}を ま 待ちなさい。
こ 小鳥の こえ 声さえ き 聞こえる しず 静かな よる 夜を。



だれも わかってくれないって ^{かん}感じるなら、
^{たいよう}太陽が しずむのを ^ま待ってごらん。星が ^{ほし}出てきて ^{きみ}君を
^{さそ}誘ってくれるよ。きっと、^{かみさま}神様が まるで ペットみたい
^{きみ}君を かわいがっておられるって わかるだろう。

いっしょに
^{あそ}遊ぼう！

わあ〜い！

